

平成25年度 沖縄サイエンスキャラバン構築事業

離島・遠隔地等科学コミュニケーション推進プロジェクト

財団法人沖縄県公衆衛生協会、特定非営利活動法人たのしい教育研究所、株式会社カルティベート共同企業体

背景・現状

沖縄県では教育機関・研究機関と民間企業が連携し新しい事業や産業を創りだし、国際的な「知的・産業クラスター」の形成を目指しています。しかし次世代を担う子供たちにとって理科と実社会との結びつきは認識しにくく理科・工学離れが起きており、離島・遠隔地においては、それが更に深刻化しています。

これまで県内においては、離島・遠隔地にも均等に学ぶ機会が提供されているとはいえ、今後は沖縄全域において科学技術・産業振興の将来を担う人材の育成を図る必要があるといえます。



本事業の目的

離島・遠隔地等の学校現場との連携により、高等教育機関や産業界の人材等を活用し、児童生徒の体験を通じた科学技術への理解を深めると共に、離島・遠隔地等の児童生徒が持続的に科学とふれ合うことのできる環境をつくります。

① 広がりキャラバン

離島の児童生徒にサイエンスの楽しさを実感してもらえる出前講座を、既存のプログラムを活用しながら実施することにより、学校現場における科学プログラム活用の仕組みづくりを目指します。

② 深まりキャラバン

学校・地域の人々やNPOと連携し、事業終了後も離島・遠隔地がそれぞれの特性を活かした独自の科学教育プログラムを持続的に実施できるようコンテンツと仕組みづくりの両面を促します。

③ 続く仕組みづくり

教育関係者、地域関係者との連携を促し、持続的な科学コミュニケーション活動が行える仕組みをつくります。

期待される効果

- 理科教育への効果的な支援基盤の構築
- サイエンスサポーター、地域科学コミュニケーター(講師)、地域科学コーディネーターの発掘・育成、連携ネットワークの構築
- 児童生徒の科学やものづくりに対する理解促進と学ぶ意欲の醸成
- 地域資源・産業技術に対する意識開拓と関連職種への職業理解の深化
- 離島地域と協力して持続的に科学教育プログラム実施できるような仕組みの構築

事業内容

①委託元

沖縄県企画部科学技術振興課科学振興班

②対象

広がりキャラバン 10離島の小中学生

深まりキャラバン 5離島の小中学生

③期間

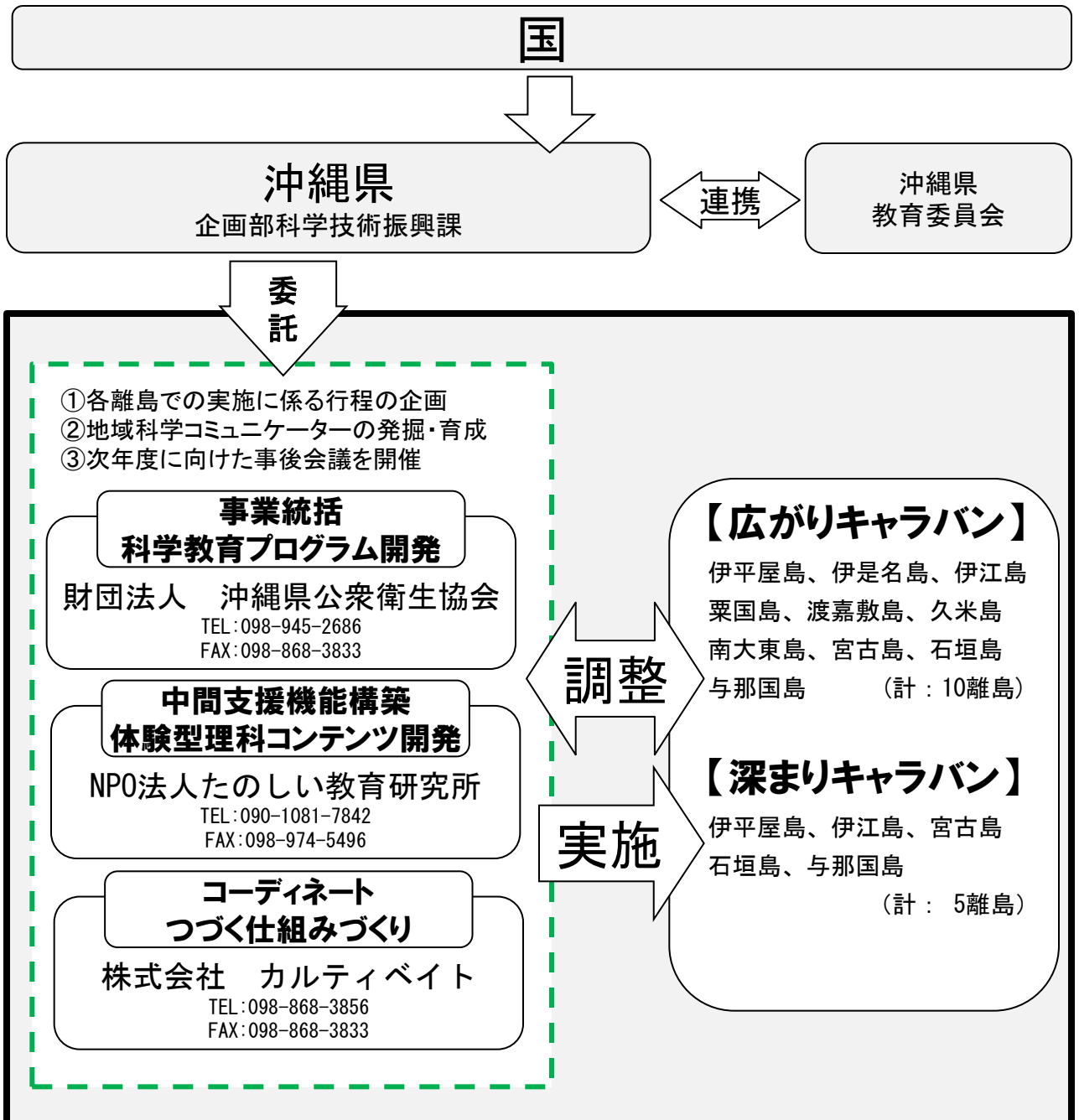
平成24年10月～平成27年3月

④費用負担

本事業にかかる費用は県の負担



事業スキーム



■ 事業内容の流れ

- A. 広がりキャラバン
 - A-1 事業周知・広報
 - A-2 たのしく魅力的な科学の授業の実施
 - A-3 体験型理科教育コンテンツの開発・実施
 - A-4 理科教師等向け研修
 - A-5 サイエンスサポーター発掘・育成

- B. 深まりキャラバン
 - B-1 対象離島選定
 - B-2 地元サイエンス・シマのサイエンス開発
 - B-3 リビングサイエンス開発
 - B-4 産業サイエンス開発
 - B-5 地域科学コミュニケーター(講師)発掘・育成

- C. 「続く」しくみの構築
持続的な科学コミュニケーション活動をおこなうための地域科学コーディネーター及び仕組みを、教育関係機関、地域関係団体等との間に構築します。

- D. 出前講座等実施実績アンケート・ヒアリング調査
沖縄科学技術大学院大学など、科学教育出前講座を実施している高等教育研究機関を対象として、出前講座の持続的な展開に関してアンケート・ヒアリング調査を実施します。

- E. 科学コンテンツ・プログラムデータベース化
既存の科学教育出前講座に関して、教育関係者の利用促進のためのデータベース化を行います。

- F. 情報発信Webサイト構築
本事業の実施にあわせて、事業の情報発信を図るWebサイトを構築します。

- G. 事業推進委員会の開催
「続く」しくみ構築のための課題把握とその解決、また本事業の推進及び評価を行うため開催します。またワーキンググループとして「シマ会議」を円卓会議スタイルで開催し、離島での科学コミュニケーションの持続的な活動について課題とその解決方法について意見交換をしていきます。

- H. 広報イベントの開催
今年度は、宮古島において、本事業の広報、サイエンスプログラム・コンテンツの紹介を目的とした広報イベントを地域NPOと連携して開催します。
イベントの実施は、平成25年1月12日(土)を予定し、調整をおこなっています。



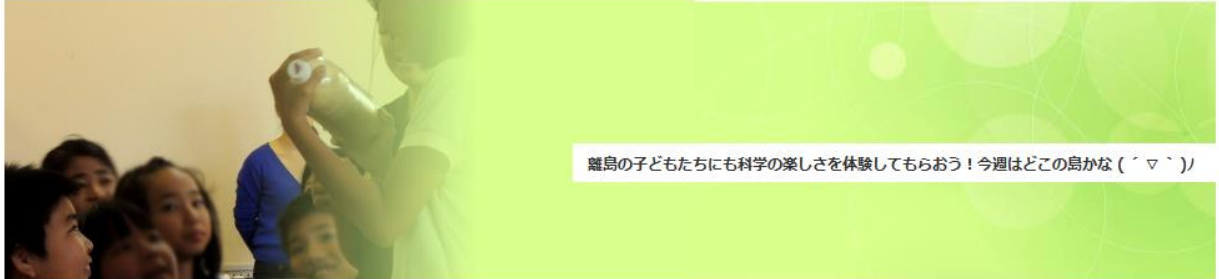
おきなわ サイエンスキャラバン

構築事業 離島・遠隔地等コミュニケーション推進プロジェクト

Search

Search

[この事業について](#) [更新情報](#) [メディア掲載](#) [イベント情報](#) [ブログ](#)



離島の子どもたちにも科学の楽しさを体験してもらおう！今週はこの島かな（´▽`）！

Search

Search

MENU

- ▷ [この事業について](#)
- ▷ [更新情報](#)
- ▷ [メディア掲載](#)
- ▷ [イベント情報](#)
- ▷ [ブログ](#)



沖縄サイエンスキャラバン構築事業って？

沖縄サイエンスキャラバン構築事業とは、沖縄県科学技術振興課科学振興班が主管するプロジェクトです。沖縄県、産業界、教育機関、学協会が連携し、沖縄の科学技術・産業振興を担う人材の育成を目指します。

このサイトでは、主に離島・遠隔地を対象にした「離島・遠隔地等科学コミュニケーション推進プロジェクト」の様子をご案内します。

最近の投稿

- ▷ 1/12 宮古島でイベントが開かれます
- ▷ 伊江小学校では豪華に・・・
- ▷ 粟国島でサイエンス授業！
- ▷ それぞれの強み
- ▷ 鹿児島研修
- ▷ 島素材発掘in与那国島
- ▷ 宮古南小学校で授業！
- ▷ 島素材発掘in石垣島
- ▷ 宮古島へ（part II）
- ▷ サイエンスキャラバンin南大東島「おちる不思議とおちない不思議」



私たちが目指すこと

私たち離島・遠隔地等科学コミュニケーション推進プロジェクトメンバーは、離島・遠隔地等の学校現場との連携によって、高等教育機関や産業界とともに児童生徒の体験を通じた科学技術への理解を深め、離島・遠隔地等の児童生徒が持続的に科学とふれ合うことのできる環境づくりを目指します。

①広がりキャラバン

離島の児童生徒にサイエンスの楽しさを実感してもらえる出前講座を、既存のプログラムを活用しながら実施することにより、学校現場における科学プログラム活用の仕組みづくりを目指します。

②深まりキャラバン

学校・地域の人々やNPOと連携し、事業終了後も離島・遠隔地がそれぞれの特性を活かした独自の科学教育プログラムを持続的に実施できるようコンテンツと仕組みづくりの両面を促します。

③続く仕組みづくり

教育関係者、地域関係者との連携を促し、持続的な科学コミュニケーション活動が行える仕組みをつくりまします。

ブログカテゴリー

- ▷ [カルティベイト日記](#)
- ▷ [公衛協LOG](#)
- ▷ [たのしいブログ](#)



事業概要

- ①委託元
沖縄県企画部科学技術振興科学振興班

サイエンスキャラバン (宮古島) 新聞掲載

ロケットの推進力学ぶ

来間で「サイエンス授業」

来間小中学校(乾摩子校)が飛ぶ実験などを通して、長で10日、たのしい教育研究所代表の喜友名(きともな)さんを講師に迎え、ロケットの推進などについて学んだ。授業は沖縄サイエンス・キャラバン構築事業の一環として初めて行われた。

喜友名さんは用意したフィルムケースに水と発泡剤を入れ、内圧が上がると勢いよく飛んだ。その瞬間、児童たちからは「おー」という声が上がった。

砂川進一君(中2)は「このような実験中心の授業は少ないのでとても楽しかった。ロケットがなぜ飛ぶのか、噴射口から出ている白い煙のようなものが水だときよう初めて分かった」と話した。

サイエンス・キャラバン構築事業は離島遠隔地の学校現場との連携により、高等教育機関や産業界の人材を活用して、児童生徒の体験を通じた科学技術への理解を深めることなどが狙い。



喜友名さん(写真中央)のロケット推進力などについての授業を興味深く聞く児童たち
11日、来間小中学校

宮古毎日新聞
2012.08.11

宮古新

刊) (第二種郵便物認可)

科学は考え試すこと

サイエンスキャラバン 来間小中で特別授業



ロケットに関する仮説実験授業を行った喜友名さん(左) = 9日、来間小中学校

県サイエンス・キャラバン構築事業として9日、市立来間小中学校でNPOの新しい教育研究所(うるま市)の喜友名(きともな)さんによる科学の授業が行われた。宇宙ロケットがなぜ飛ぶのかをテーマに実験やゲームを通して、子供たちに自分で考え仮説を立て失敗しても試す科学のおもしろさを体験してもらった。

今回の授業はロケットの推進原理や形状を学ぶことが目的。喜友名さんは「自分で考え、工夫することが大切。科学者の試行錯誤をたどりながらワクワクして楽しむ。予想が外れても次へ行く、科学の醍醐味を体験してほしい」と話した。このキャラバンは離島遠隔地等で体験を通じた科学技術への理解を深めることなどを目的に今年度から実施されている。

宮古新報
2012.08.11